

いのち
災害から生命を守る学びテスト

JBK ジュニア防災検定[®]

第4回

中級

(40分)

問題用紙

「ジュニア防災検定」に取り組むことを通して、みなさんが、次の①～③のような行動が取れるようになることを目指しています。

- ① 日ごろから災害に備えた準備ができる。
- ② 災害時に生命を守るための行動ができる。
- ③ 未来を創るひとりとして防災・減災のために何ができるのかを考えることができる。

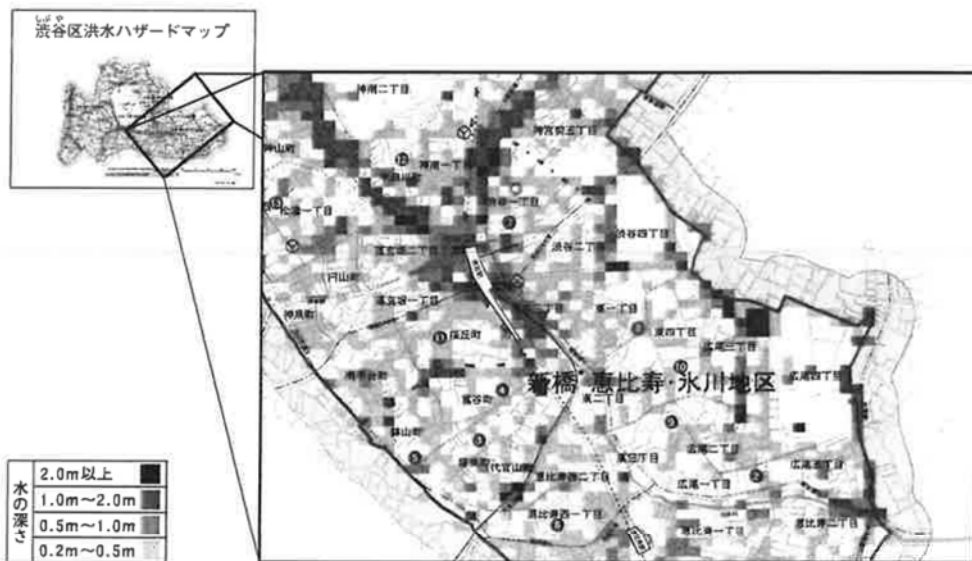
- 問題用紙は全部で14ページあります。
 - 名前を答案用紙の決められた欄に書きましょう。
 - 問題の答えは、答案用紙に書きましょう。
 - 質問があるとき、トイレに行きたくないとき、気持ちが悪くなったときなどは、手をあげて知らせましょう。
-

Ⅰ ある夜、陽太くんは家族4人で話をしていました。その中で、2015年に起きた「関東・東北豪雨」のことが話題になりました。

姉：茨城県で起きた洪水では大きな被害が出たわね。
陽太：鬼怒川の洪水のことだよ。ぼくもニュースで見たよ。
父：わが家の近くにも大きな川が流れているし、洪水が起こったときにどうすればよいか考えておかななくてはいいね。
母：防災に関する情報を理解してどう行動するか決めておくことが大切ね。

次の日の夕食後、お父さんが住んでいる地域のハザードマップを持ってきてくれたので、陽太くんはお父さんといっしょに見ることにしました。

陽太：お父さん、ぼくたちの家は大雨が降り続いたらどうなるの？
父：調べてごらん。まず家の場所を確認して、それから浸水予想区域が何色にぬられているかを見ればいいね。
陽太：○△2丁目だから……0.5メートル～1メートルだね。大丈夫かなあ。
父：集中豪雨や、台風などによる大雨が降れば、1階部分は浸水する可能性もあるね。だから、日ごろから気象情報に注意したり、どこに避難するかを決めたりすることが大切なんだ。



問題1 ハザードマップとはどのような地図のことですか。次のア～エの中からふさわしいものをすべて選び、記号で答えましょう。

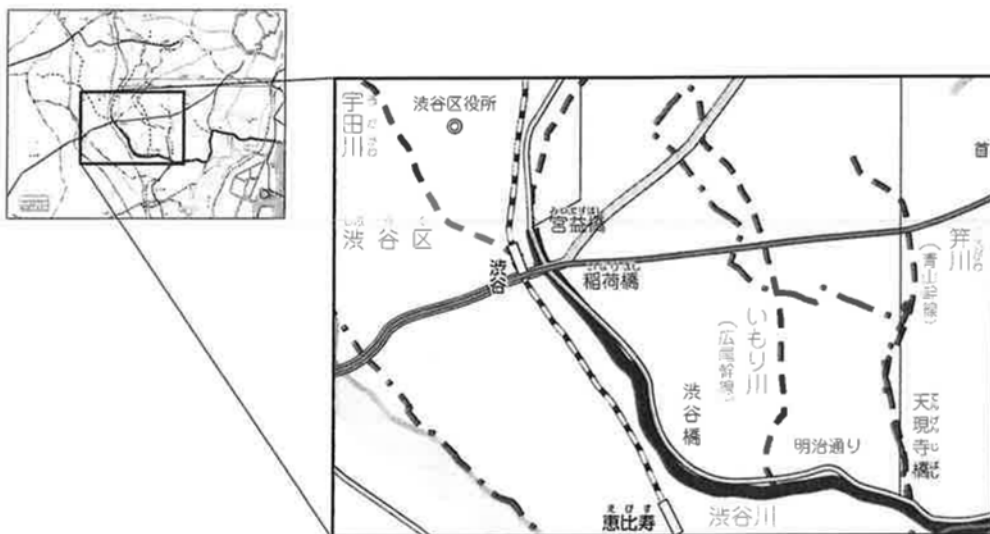
- ア ハザードマップには、自然災害が起こったときに、どの地域にどのような被害がおよぶのかを予測した情報がのっている。
- イ 自分の家の近所にある広域避難場所や避難所の位置も記されているので、避難のための計画を立てやすい。
- ウ マップに示された地域に住むすべての人の住所、名前、年齢、電話番号がふくまれているので、町内のお年寄りに連絡をとって避難を手助けしやすい。
- エ どのような種類の災害であっても、避難に適した場所は同じなので、ハザードマップは1種類だけあればよい。

陽太くんは、地図中の渋谷駅のまわりが浸水の危険性が高いことに気づいたようです。

陽太：渋谷駅の近くはどうしてこんなに洪水になりやすいの？ 洪水になりやすいところって、海や川の近くの低い土地だって学校で学んだけれど、駅の近くに川なんてあったっけ？

父：いいところに気がついたね。この地図で見くらべるとわかるよ。

お父さんは、もう一枚の地図を出してきてくれました。



陽太^{ようた}：わあ、おもしろいね。むかしはこんなふうに川が流れていたんだ！
父^{ちち}：今の地図にはかかれていない川もあるだろう。渋谷川^{しぶや}や宇田川^{うだ}という川の名を探してごらん。
陽太^{ようた}：見つけたよ！ へえ、渋谷^{しぶや}って川の名前だったんだね。
古い地図だと()ね。
父^{ちち}：渋谷^{しぶや}という駅名がそもそも「むかしは谷だった」ことを示しているし、「宇田川町^{うだがわ}」という地名もこのあたりに川があったとわかる手がかりだね。ほかにも「窪^{くぼ}」「久保^{くぼ}」や「江^え」「砂^{すな}」「浜^{はま}」という字がついている地名は、洪水^{こうずい}などの水害に見舞^まわれやすいといえるんじゃないかな。

問題2 ()にあてはまることばを次のア～ウの中から1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 災害時にどの避難場所^{ひなん}に行けばもっとも安全なのかがわかる
- イ 今の地名が、むかしのどのような地形をもとにしていたのかがわかる
- ウ 土地の高低差や坂になっているところがひと目見てわかる

問題3 「窪^{くぼ}」「久保^{くぼ}」「江^え」「砂^{すな}」「浜^{はま}」という字がついている地名は洪水^{こうずい}などの水害に見舞^まわれやすいとお父さんが言っています。それはなぜだと思いますか。「窪^{くぼ}」「久保^{くぼ}」「江^え」「砂^{すな}」「浜^{はま}」の4つの字の中から1つを選び、その理由を説明しましょう。

陽太^{ようた}：もし、洪水^{こうずい}で避難^{ひなん}することになったら、家からはどこに行けばいいんだろう。地図では□○中学校が近いみたいだけれど行ったことないなあ。
父^{ちち}：一度行ってみた方がいいね。あと、避難場所^{ひなん}に行くのが間に合わないときにはどこに逃^にげるのかも考えておかないといけないね。

問題4 一度行って見た方がいいとお父さんが言っているのはなぜですか。その理由としてふさわしくないものを次のア～エの中から1つ選び、記号で答えましょう。

- ア じっさいに避難するときのようすをイメージしやすくなるから。
- イ どの道を選んで避難すればよいのかを決めておくことができるから。
- ウ 避難する途中に、危険な場所や歩きにくい場所がないかチェックできるから。
- エ 前もって登録しておかないと災害時に避難場所に入れないから。

問題5 緊急避難場所や避難所、避難経路を知っておくことは、日ごろの備えとしてとても重要です。「緊急避難場所」とは、災害が発生したり、発生するおそれがあったりする場合に、その危険から逃れる場所です。一方、「避難所」とは、災害の危険性がなくなるまでの期間、住民を滞在させたり、災害により家に戻れなくなった住民に一時的な生活場所を提供するための施設のことです。

この緊急避難場所や避難所については、2014年に新しい地図記号ができて、ハザードマップなどにも使われはじめています。

説明1

新しい地図記号には、緊急避難場所・避難所・避難所兼緊急避難場所を示す3つの記号と、①～④の災害種別の4つの記号があります。




緊急避難場所 避難所 避難所兼緊急避難場所

①洪水・浸水 ③高潮・地震・津波
②崖崩れ・土石流・地滑り ④地震・大規模火災


説明2

緊急避難場所や避難所兼緊急避難場所には、その避難場所に対応する災害種別記号を組み合わせて示します。



説明3

インターネット上では、特別なメッセージがある場合や火山など特定地域の災害種別は赤い「！」で示され、メッセージが飛び出すように表示されます。



津波の場合 使用不可

赤

次の地図記号が表す意味として、後のア～エのうち、もっともふさわしいものを1つ選び、記号で答えましょう。



- ア たかしお つなみ 高潮や津波が起きたときの避難所
- イ こうずい がけくず 洪水、崖崩れが起きたときの避難所兼緊急避難場所
- ウ じしん こうずい 地震や洪水が起きたときの緊急避難場所
- エ ふんか 火山が噴火したときの緊急避難場所

問題6 きんきゅうひなん ひなん 緊急避難場所や避難所についての説明です。説明としてふさわしいものを次のア～エの中から2つ選び、記号で答えましょう。

- ア ひなん 避難所は、災害による危険から一時的に逃れて待つ場所で、大きな公園や緑地、大学などが指定されている。
- イ きんきゅうひなん つなみ 緊急避難場所は、津波の場合は使用不可であるなど、災害の種類によっては安全ではないことがある。
- ウ きんきゅうひなん じたく ひなん 緊急避難場所については、自宅から遠く避難が間に合わないと思われる場合や、歩くのに時間がかかる高齢者であっても、住んでいる市町村が指定した避難場所に行くのがもっとも安全である。
- エ ひなん 避難所は、災害によって自宅じたくで生活することが困難こんなんになったときに一定の期間避難生活をする場所で、小中学校や公民館などの公共施設が指定されている。

- ② 真理さんのクラスでは、過去の地震やこれから起こる可能性がある地震について話をする時間がありました。

先生：日本では、過去20年の間に起こった地震の中で、大きな被害をもたらした地震が2つあります。そして、近い将来、「南海トラフ地震」や「首都直下地震」などの大きな地震が起こる可能性があるといわれています。みなさんは、これらの地震について、何か知っていることはありますか。

陽太：「南海トラフ地震」や「首都直下地震」という名前は聞いたことがあるけど…。

真理：私も名前は知っているけれど、くわしくはわからないわ。

- 問題1 先生が言っている、過去20年の間に起こった地震の中で、大きな被害をもたらした地震は次の2つです。

- A 1995年1月に、兵庫県南部を震源として起こった地震
 B 2011年3月に、東北地方の太平洋沖を震源として起こった地震

- (1) A、Bのうち、津波による被害が大きかったのはどちらですか。記号で答えましょう。
- (2) 2つの地震は、政府によって(A)大震災、(B)大震災とそれぞれ名付けられています。()にあてはまることばを、それぞれ答えましょう。

真理さんたちは、先生の説明やさまざまな資料を見ながら、それぞれの地震がどのようなものか、どのような被害があると考えられるのかなどを整理していきましました。まず、南海トラフ地震に目を向けました。

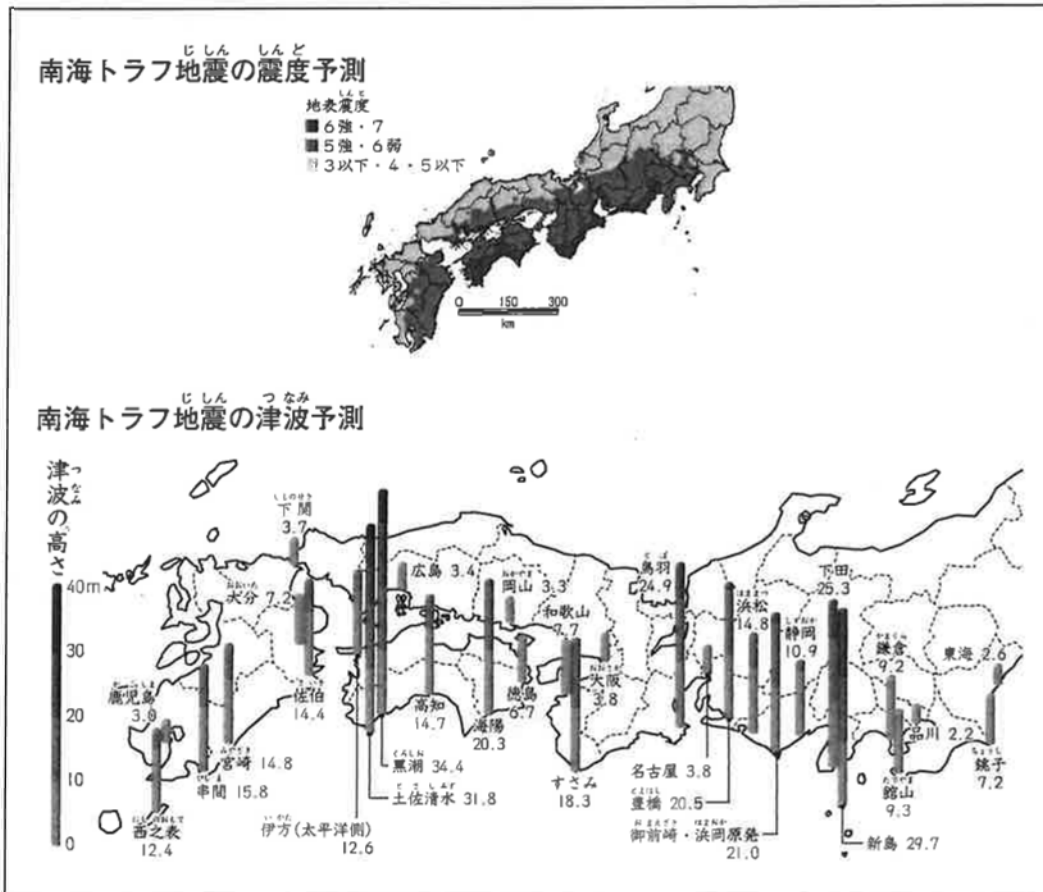
南海トラフ地震

駿河湾から四国の南にかけて続く南海トラフという海底の溝(トラフ)の付近を震源とする地震。震源域によって、南海地震、東南海地震、東海地震とよばれるが、それらが連動して起こる場合もあり、そのときは被害が大きくなると予想されている。

マグニチュード9前後の巨大地震になる可能性があるといわれていて、地震のゆれによる被害に加えて、津波による被害も大きくなると考えられている。



問題2 政府は、南海トラフ地震が起こった場合について、さまざまな視点から被害を想定しています。最大の震度や津波の高さを予測した図があるので見てみましょう。



上の図をもとに、南海トラフ地震が起こった場合の震度や津波による被害について読み取れることとしてふさわしいものを次のア～エの中から2つ選び、記号で答えましょう。

- ア 太平洋に面した地域だけでなく、内陸部でも大きなゆれにおそわれる可能性が大きい。
- イ 太平洋に面した地域が主にゆれるので、内陸部では大きなゆれにおそわれる心配はない。
- ウ 津波の被害が想定されているのは、東海から四国の太平洋沿岸に面した地域だけで、瀬戸内海や関東や九州沿岸の地域への影響はない。
- エ 津波による被害は、関東から九州までの太平洋に面した地域に加え、瀬戸内海沿岸にも影響がある。

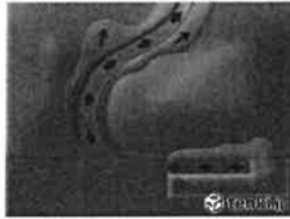
問題3 津波は海岸から内陸へかけ上がっていきます。これを津波の遡上といいますが、津波の遡上によって、海に面していない内陸にも影響がおよぶことがあります、その範囲は地形によって変わります。

次の①～③のような地形に津波が押し寄せた場合、それぞれの地形の特徴から、津波が遡上した場合にどのような影響があると考えられますか。説明としてふさわしいものを後のア～ウの中から選び、それぞれ記号で答えましょう。

①傾斜地形



②河川・運河



③海岸平野



海岸から内陸に向かって
だんだん標高が高くなり、
斜面となっている地形。

海に流れこむ河川や、水路
のある地形。

海岸線に面した低い平地。

ア 津波が内陸深くまで進みやすく、河岸堤防を越えて市街地や田畑に浸水することがある。

イ 津波の影響がおよぶ面積が広いのが特徴である。低地が多いのでいったん浸水すると排水しにくく、浸水期間が長くなるおそれがある。

ウ 奥まった入り江があったり、前面の海底が谷状になっていたりするため、津波は標高が高いところまで遡上する可能性が高い。

次に、首都直下地震に目を向けました。

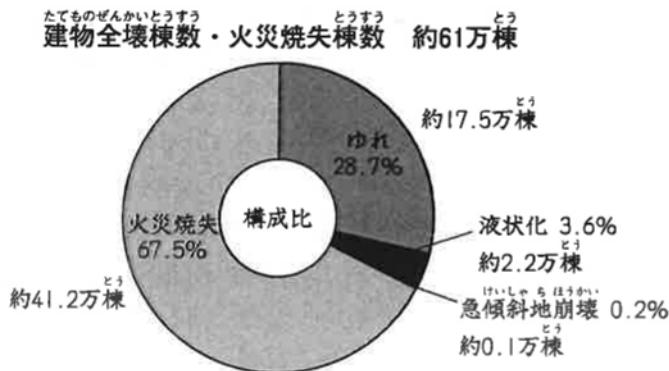
首都直下地震

首都圏を震源とする地震のこと。

下の図は、日本政府がマグニチュード7クラスの地震が起こりやすいと想定している場所を示したものです。人びとが生活しているところの真下が震源となる可能性が高いため、大きな被害が出ると考えられています。



問題4 首都直下地震が発生した場合には、火災があちらこちらで起こり、特に木造の建物が集まっている地域では、大規模な火災が起こる場合があります。内閣府の予測では、およそ61万棟の建物がゆれや火災によって失われ、その内訳は次のようになると考えられています。



地震発生後に、火災が発生していたとします。そのとき、あなたが避難するとしたら、どのような場所だと火災から身を守ることができるでしょうか。ふさわしくないものを次のア～エの中から1つ選び、記号で答えましょう。

ア 広い公園



イ 広い大学の構内



ウ 野球場やサッカー場



エ 大きな通り・道路



問題5 公園などの公共の場所は、災害が起こったときに人びとが身を守り、避難するための「避難場所」になったり、救出・救援活動などの「活動拠点」になったりします。このような役割を持つ公園を「防災公園」といいます。東京都では、都立公園53か所が「避難場所」とされています。このうちの26か所の公園は、救出・救助活動などの「活動拠点」としても活用されます。

図 主な防災公園



防災公園の説明としてふさわしくないものを次のア～エの中から1つ選び、記号で答えましょう。

- ア ヘリコプターの離着陸に使われるところもある。
- イ 災害対応トイレが用意されている。
- ウ 応急給水槽や防火水槽がある。
- エ 市区町村に必ず1つずつある。

問題6 首都直下地震が日中に起こった場合には、電車が止まったり、道路が通れなくなったりして、学校や職場、外出先から帰宅することができない帰宅困難者の数が非常に多くなると考えられています。首都直下地震が起こったときに、学校や職場にいる場合や、通学や通勤途中などの場合、どのような行動をとると自分の身を守ることができると考えられますか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを1つ選び、記号で答えましょう。



ア 家に帰った方が安全なので、どんなに時間がかかっても徒歩で家に向かう。

イ 電車が動き出したらすぐ移動できるように、最寄りの駅に行く。

ウ 学校や職場が安全ならば、むやみに移動しないでそこで待機する。

エ その場を動く危険なので、どこにも行かず、携帯電話やスマートフォンがつながるまで家族に連絡をし続ける。

問題7 大きな災害のときは、救急車がすぐにはかけつけられないこともあります。

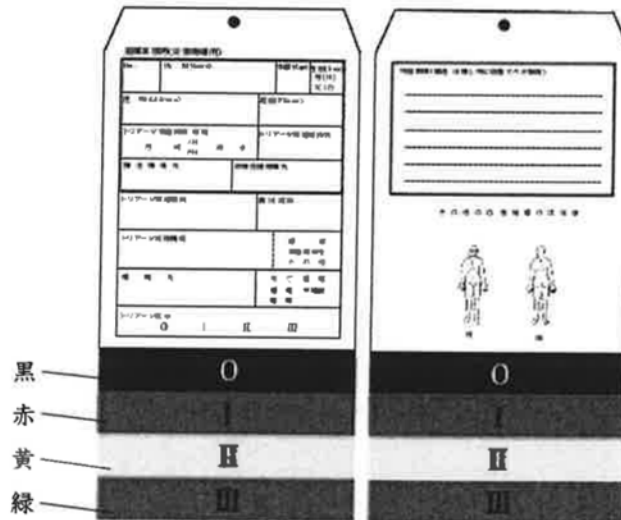
病院に行くまで、または治療を受けるまでの間に手当てをすることを応急手当といい、けがや病気の悪化を防ぐことができます。災害が発生したときに、その場で応急手当をしたら、どのようなものを使って、どのように手当てをすることができるでしょうか。次の①～⑤の症状の中から1つ選び、どのような応急手当をすればよいかを説明しましょう。

- ① 出血 ② 骨折 ③ やけど ④ 熱中症 ⑤ ねんざ



問題8 大きな災害のときは、多くのけが人が同時に発生します。病院に大勢の人が押しかけて混乱することがあります。そのため、災害時には災害が発生した場所で患者の重症度によって、治療の優先順位を決定して選別を行う、「トリアージ」を使って対応します。選別を行った患者には、次の図のような識別票(トリアージタグ)をつけて、患者の重症度を「0・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の段階で示し、だれが見てもその人の状態がわかるようにします。

トリアージで使われる識別票(トリアージタグ)



トリアージが用いられる理由について、次のア～エの中からふさわしくないものを1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 多くのけが人を効率よく助けるため。
- イ 先着した順番をはっきりと示すため。
- ウ 医師や看護師、医療設備などの数が限られているため。
- エ けがの重症度によって治療の順番を決めるため。

災害から^{いのち}生命を守る学びテスト

JBK

ジュニア防災検定[®]

- ① 陽太くんと家族の会話をもとに、集中豪雨や台風による洪水について考えました。地域のハザードマップや、古い地図からわかることを読み解いたり、ハザードマップなどでしめされる避難所や緊急避難場所の地図記号についても取り上げました。災害が起こったときに、どのような情報をもとに、どのような行動をとればよいのか、普段から意識してみてください。

問題1 ハザードマップとはどのような地図なのかを問う問題です。ふさわしいものはアとイで、ウ・エはふさわしくありません。ハザードマップには、ウのように、住む人の住所・名前・年齢・電話番号などの細かい個人情報までしめされることはありません。地域ごとに、住んでいる人の名前がしめされた地図をつくることはあります。エは、1種類だけあればよいという部分があやまりです。例えば、火災発生時の避難場所としては適しているが、津波発生時の避難場所には適していないところもあります。自治体のホームページなどを見ると、洪水、土砂災害、地震など災害の種類ごとにマップを作成しているところが多くなっていることがわかります。

問題2 東京都の「渋谷」という地名が、渋谷川という川の名でもあったことを知ったときの陽太くんのことを考えます。このことから推測すると、イが当てはまるとわかります。

問題3 「窪」「久保」「江」「砂」「浜」という字がついている地名は、洪水などの水害に見舞われやすい理由を考えます。「窪」「久保」は窪地のことで、周囲よりもへこんでいる低い土地をしめします。「江」は海や湖の一部が陸地に入りこんだ入り江のことを意味しています。「砂」や「浜」はどちらも海辺にあるものなので、海に近い土地だということをしめています。これらのことから、理由を推測して説明することができます。あなたが知っている地名の中に、これらの字がついているものはありましたか。

問題4 災害が起きていない時に、避難場所実際に試してみることは、防災を考える上で非常に有効です。アに書かれているように、避難するときのようすがイメージしやすくなれば、避難のための準備もしやすくなり、イに書かれているように、どの道を通るかを決めておけば、いざというときにあわてたり迷ったりしません。ウに書かれている「危険な場所や歩きにくい場所」とは、例えば道路に側溝(みぞ)があって足をとられやすい場所などのことですが、浸水時には側溝が見えなくなってしまうことも多いので、災害が起きていない時にチェックすることが大切なのです。エのように、登録しておかないと避難場所に入れないということはありません。

問題5 説明1～説明3を参考にすると、緊急避難場所の記号と、災害種別①の洪水・浸水をしめす記号、災害種別②の高潮・地震・津波をしめす記号の3つを組み合わせた地図記号であるとわかります。このことから、ウの「地震や洪水が起きたときの緊急避難場所」であることが判断できます。

問題6 ふさわしいものはイとエです。緊急避難場所と避難所のちがいは問題5の問題文から考えることができます。アは避難所ではなく、緊急避難場所の説明です。ウのように、「どんな場合でも指定の避難場所に行く」という考えは、かえって被害や危険を大きくすることにつながりかねません。状況に応じて、指定の場所だけでなく避難しやすい場所があればそちらを選択するなど、臨機応変に判断してよいのです。災害発生時には、まず自分の命を守る行動をすることが、大切だからです。

- ② 真理さんのクラスでの先生と生徒の会話をもとに、過去の地震やこれから起こる可能性のある地震について考えました。地震による津波の影響や地震発生後の避難のしかた、けがをしている人への対応など、さまざまな角度から地震をとらえました。この検定をきっかけに、あなたも家族で防災について今まで以上に話をしたり、自分自身でできる備えについて考えてみてください。

- 問題1 Aの1995年1月に兵庫県の南部を震源として起こった地震は阪神淡路大震災、Bの2011年3月に東北地方の太平洋沖を震源として起こった地震は東日本大震災と、政府によって名付けられています。このうち、津波による被害が大きかったのは、海底を震源として起こった地震である、東日本大震災です。
- 問題2 南海トラフ地震が起こった場合の震度予測や津波予測の図をもとに、どの地域にどれくらいの被害が出るのかをとらえていきます。震度予測の図を見ると、地図中で色が濃い部分ほど震度が大きくなることを表しているの、太平洋に面した地域だけでなく内陸部でも大きなゆれにおそわれる可能性が大きいことが読み取れます。津波予測の図を見ると、関東から九州までの太平洋に面した地域で特に高い津波が予測されていますが、瀬戸内海沿岸でも津波の影響が予測されていることが読み取れます。
- 問題3 ①の傾斜地形は、海岸から内陸に向かってだんだんと標高が高くなり、斜面となっている地形で、標高の高い方へ向かう矢印がしめされています。奥まった入り江があったり、前面の海底が谷状になっていたりすると考えられ、津波は標高が高いところまで遡上する可能性が高い地形です。②の河川・運河では、津波が河川や運河を内陸の方へ進んでいくようすが矢印で表されています。河川・運河では、河岸堤防を越えて市街地や田畑に浸水することがあると考えられています。③の海岸平野は、海岸線に面した低い平地で、海から陸地へ広く浸水している矢印がしめされています。海岸平野では、津波の影響がおよぶ面積が広く、低地が多いので、いったん浸水すると排水しにくく、浸水期間が長くなると考えられています。図や説明をもとに、地形の特徴をとらえて、選択肢の内容と対応させることができましたか。
- 問題4 火災が発生した場合、まわりに燃えるものがあると、燃え広がっていきます。そのため、燃えるものがない(少ない)場所へ避難するのが、火災から身を守るためには適切だと考えられます。エの大きな通りには店舗や住居があり、燃えるものが多いと予測されることや、建物が密集しているために火が燃え移りやすいことが考えられるので、避難する場所としてはふさわしくないと考えられます。
- 問題5 防災公園は、ヘリコプターの離着陸に使われたり、災害対応トイレ、応急給水槽や防火水槽、ソーラー発電の公園灯、かまどベンチ(普段はベンチとして使用でき、災害時にはかまどとして使える)があったりする場所です。防災公園は各地にあります。すべての市区町村に必ず一つあるわけではありません。自分が住んでいる場所の近くで「避難場所」や「活動拠点」になるような場所はあるのかを調べてみてよいですね。
- 問題6 首都直下地震が起こった場合、火災が起こったり、建物が倒壊したり、交通機関が乱れたり、電話がつかなくなったりすることが考えられます。そのような状況では、今いる場所や、家までの道が安全なのかどうかもわかりませんし、電車やバスが動き出すかどうかもわかりません。学校や職場が安全ならば、むやみに動かずにそこで待機し、学校や職場が安全でなければ、近くの避難場所などに避難をする必要があります。自分の生活するところの周辺にある避難場所や避難所を知っておくと、災害に遭遇したときに自分の身を守るための行動を起こしやすくなります。
- 問題7 ① 出血した場合には、できるだけ清潔な布を出血した場所に当て、その部分を手で圧迫して止血します。止血する人は、血液による感染が起らないよう、手にビニールなどを巻いてから止血を行う方がよいとされています。
- ② 骨折した場合には、骨折した部分が腫れたり、不自然に変形していたり、動かすと強い痛みがあったりするなどの症状が見られます。副え木になるような、雑誌、ダンボール、新聞、傘、杖、靴べら、座布団などを探し、骨折した部分に当てて、ひもなどを使って体と固定します。ひもはハンカチやストッキング、衣類などでも代用できます。
- ③ やけどした部分に、できるだけ早く流水を当てて冷やすとよいのですが、災害時はたっくさんの水を確保するのが難しいことが予想されます。その場合、できるだけ清潔な布を水でぬらし、やけどした部分に当

て冷やします。衣服の上からやけどした場合、衣類を無理にはがすと皮膚の組織をいためることもあるので、着たままの状態^{たいがい}で冷やします。また、水ぶくれができている場合は、つぶさないようにします。水ぶくれがつぶれると、細菌^{さいきん}などによる感染^{かんせん}が起こるおそれがあります。

④ 熱中症^{しやうちゆう}になった場合、風通しがよい日陰^{ひかげ}や涼しい場所に運び、衣類をゆるめて楽にします。体を冷やす方法としては、体を水でぬらしたり、あおいで風を送ったりする方法があります。意識があり、吐き気^{はきけ}や嘔吐^{おうと}がないようならば、うすい食塩水^{しょくえんすい}やスポーツ飲料^{すぽーつりんと}などを飲ませて水分補給^{すいぶんほくけい}を行います。

⑤ 打撲^{だぶく}などによってねんざをした場合、ねんざをした部分を布などで固定^{こてい}します。また、腫れている部分を水や氷などで冷やします。

①～⑤のいずれの場合も、できるだけ早く医療機関^{いりょうきかん}の受診が必要となります。災害時には、応急手当てをするための物資が不足することが予想されるので、どのようなもので代用できるのかを考えられるよう、基本的な手当ての方法を知っておくとよいですね。

問題8 大きな災害で、多くのけが人が同時に発生した場合には、医師^{いし}や看護師^{かんごし}、医療設備が不足することが予想されます。そのため、患者^{かんじや}の重症度^{じゆうじゆうど}によって、治療^{ちりやう}の優先順位^{ゆうせんじゆんゐ}を決定するトリアージを行い、より多くのけが人を効率よく助ける必要があります。トリアージでは、識別票^{しやくべいひょう}を用いることで、だれが見ても、その人の状態^{じゆうたい}がわかるようになっています。

JK
ジュニア防災検定[®]
第4回

中級 答案用紙

得点

学校(団体)名	
名	フリガナ
前	
	男・女

問題1	ア、イ	問題2	イ
-----	-----	-----	---

問題3	選んだ字 窪	理由
「くぼんでいる」ところは、ほかよりも低くなっていて、水がたまりやすい場所だと考えられるから。		

問題4	エ	問題5	ウ	問題6	イ	エ
-----	---	-----	---	-----	---	---

問題1	(1) B	A	阪神淡路 (大震災)	日	東日本 (大震災)
-----	----------	---	------------	---	-----------

問題2	ア	エ	問題3	① ウ	② ア	③ イ	問題4	エ	問題5	エ
-----	---	---	-----	--------	--------	--------	-----	---	-----	---

問題6	ウ
-----	---

問題7	番号 解答例 ①	応急手当の説明
ハンカチなど、できるだけ清潔な布を出血した部分に当てて、上から手で圧迫する。		

問題8	イ
-----	---